

高等学校福祉科「生活支援技術」学習指導案

1 題材名 「多職種連携によるチームアプローチ 利用者中心の協働と実践」

2 題材設定の理由
3 題材の目標
4 題材の評価規準
5 指導計画

} (省略)

6 本時の学習指導（本時 2 / 3 時間）

(1) 本時の目標

- ・事例を通して当事者の気持ちに寄り添いながら生活支援の在り方、チームアプローチについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、創造的に解決する力を養う。 【思考・判断・表現】
- ・利用者を中心とした他の職種との協働と実践を踏まえたよりよいチームアプローチについて理解することができる。 【知識・技術】

<ヤングケアラーの扱いについて>

本題材では事例を通して当事者の気持ちを考え、利用者を中心とするチームアプローチの在り方について題材として扱う。

事例では、利用者家族に課題を抱えているヤングケアラーを設定し、各専門職として利用者にとってよりよい支援とはどういったことかを利用者の背景の一つである家族を含めた支援という視点から考え、多くの職種が協働することの意義や目的について理解できるようにする。

また卒業後には専門職を目指す生徒もおり、進路実現をふまえた視点も含めて考えさせたい。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・）評価規準（◇） <評価の観点>（評価方法）
導入 15分	1 挨拶	・挨拶、身嗜み、忘れ物の確認を通し、福祉を担う専門職としての心構えをもたせる。
	2 「あったらいいなこんなもの」を行う	・生徒がそれぞれ「あったらいい」と思うものを自由に考え発表する活動を通し、考えを自由に表現する雰囲気を醸成する。また、他の生徒の発表を聞くことで様々な考えがあることや新たな視点に気付くことができるようにする。
	3 本時の課題を知る	
課題 よりよいチームアプローチについて考えよう！！		

展開 30分	<p>4 ヤングケアラーについての新聞記事を読む</p> <p>5 各生徒が感じたことをヤングケアラーへのメッセージとして表す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー（当事者）の体験についての記事を読み、その家庭の状況や利用者の状況、その家族の心情について理解できるようにする。 ・新聞記事の概要を説明しながら、生徒が家庭の様子をイメージしやすいように補足事項を伝える。 ・事例のヤングケアラーの当時の想いを想像させるとともに、利用者にとって必要な支援や不足している支援について考え、その世帯に関わる専門職として他にどのような職種との連携が必要か考えられるようにする。 <p>◇事例を通して当事者の気持ちに寄り添いながら生活支援の在り方、チームアプローチについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、創造的に考え表現している。</p> <p><思考・判断・表現>（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、メッセージがうまく書けない生徒に対しては、対話をしながら考えがまとめられるようにする。
	<p>6 他の生徒のメッセージを読み、意見交換を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート交換を行い、他の生徒のメッセージを読むことで、様々な職種が支援に関われることに気付かせるとともに、他の職種との協働により利用者にとってよりよい介護を提供することができることを理解させる。 <p>◇利用者を中心とした他の職種との協働と実践を踏まえたよりよいチームアプローチについて理解することができる。</p> <p><知識・技術>（ワークシート、机間指導）</p>
まとめ 5分	<p>7 本時のまとめと次時の予告を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門職は利用者を中心としたチームアプローチが基本ではあるが、その家族といった利用者の背景も考えたうえで、様々な職種との連携したサービスを提供することにより、利用者にとってよりよい介護となることについてまとめる。 ・次時の予告をし、見通しをもてるようにする。

第1編 私たちの暮らしと生活支援 第3節 他の職種の役割と協働

1. 多職種連携によるチームアプローチ

2 利用者中心の協働と実践

(0) 復習

◎ チームアプローチ

各職種が目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること

(1) あったらしいな こんなもの

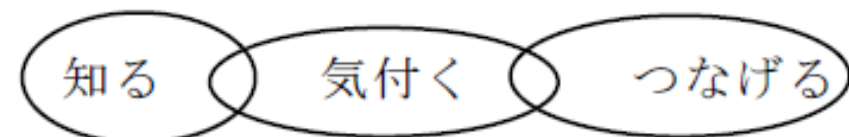
Q. あったらしいな こんなもの

○私の意見

○みんなの意見

(2) 事例紹介 (別紙)

まとめ



「利用者中心」の背景にも目を向け、よりよいチームアプローチを目指す

→○○さんに出会ってよかったと思われる存在を目指す

生活支援技術

年 組 番 氏名
月 日 ()

第1編 私たちの暮らしと生活支援 第3節 他の職種の役割と協働

1. 多職種連携によるチームアプローチ

2 利用者中心の協働と実践

(0) 復習

◎

各職種が目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること

(1) あったらしいな こんなもの

Q. あったらしいな こんなもの

○私の意見

○みんなの意見

(2) 事例紹介 (別紙)

まとめ

事例 ワークシート

<事例紹介>

〇〇さん（大学4年生）

現在は軽度の知的障害者の女性3人が暮らすグループホームで調理や清掃のアルバイトをしている。

小学4年生の時に病気の母に代わり、幼いきょうだいの世話や家事を担い始めた。

1. メッセージを送ろう

小学4年生当時の〇〇さんへ

Blank area for writing a message to the 4th grade self, with a folded corner at the bottom right.

より

2. メッセージを読んで

さんへ
より

さんへ
より